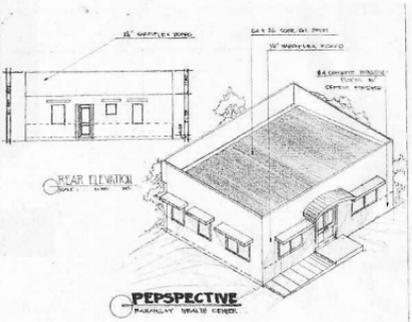


災害被害の比で 健康施設再建へ

A M D A

昨年、地震と台風30号の被害を受けたフィリピン・ボホール島で、国際医療N G O・A M D A (アムダ) (本部・岡山市) が、地域のかかりつけ医のような役目のある町の「ヘルスステ



フィリピン・ボホール島のマリボホック町ヘルスステーションの再建計画

図1 A M D A 提供

ーション」の再建に乗り出す。

フィリピンでは昨年10月15日にマグニチュード7・1の地震があり、2000人を超す死者・行方不明者が出た。A M D A は、震源近くのボホール島マリボホック町で地震直後から衛生用品の配布などの救援活動をしていた。11月8日に大型の台風30号がフィリピンを通過してさらなる被害が生じたため、支援活動を続けていたところ、ヘルスステーションが地震で倒壊しているという情報を得た。

A M D A によると、フィリピンではヘルスステーションが自治会ごとにある。助産師や保健師らが常駐していて、健康相談や検診が受けられる。軽症患者に対応できるよう最低限の医薬品が常備されている。

再建に必要な費用は約3

00万円です、これまでに集めた寄付金を充てる。A M D A は「地元の声にこたえた支援をしよう、と再建を決めた」としている。

(長崎縁子)